

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 1月19日

【評価実施概要】

事業所番号	0870600376
法人名	濱野精麦株式会社
事業所名	グループホーム ひなたぼっこ
所在地 (電話番号)	茨城県筑西市市野辺133-2 (電話) 0296-24-7727

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成19年11月21日	評価確定日	平成20年3月3日

【情報提供票より】(19年10月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 5 月 8 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 7 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 8 人	

(2) 建物概要

建物形態	併設/ 単独	新築 /改築
建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	47,250 円	その他の経費(月額)	525 円	
敷金	有() 円	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 60,000 円	有りの場合 償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	315 円	昼食	470 円
	夕食	470 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名		
要介護3	1 名	要介護4	3 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.1 歳	最低	79 歳	最高	100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	宮田医院・協和中央病院・ひろせ内科クリニック・野口歯科医院
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは木造平屋建ての建物であり、周辺には住宅が建ち並び地域にとけ込んでいる。代表者は、自分が入りたいと思えるホームを目指しており、職員も一丸となって理念の実践にむけて日々試行錯誤しながらケアにあたっている。また、穏やかに人生の最期が送ることが出来るような看取りケアにも取り組んでいる。利用者に対しての職員の対応はとても温かく丁寧であり、ホーム内の家庭的な空間により、より利用者がほっとした気持ちになるのではないかと感じた。認知症を理解し、地域の中で安心して暮らしていけるようにと積極的に活動され、もっと交流の場を拡げていきたいと考え地域の行事などに参加する等、より良いサービスに向けて取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価では、ヒヤリハットの書式がない事が改善点としてあげられたが、すぐに取り組み改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価を全職員で取り組み、日々のケアの振り返りの機会になっている。話し合いを持つ事で、業務の見直しやケアのあり方、また個別性など再認識することが出来た。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	外部評価の公表やホームの運営など話し合いが行われ、その中でも、避難訓練についての話し合いで、近所の方にも協力が得られるようにと防犯ベルを設置する等、具体的に取組まれている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の面会時や、家族同士の交流が図れる行事等の機会に意見等を引き出せるように働きかけしている。家族の意見や要望に対して職員全体で話し合いホーム運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に入会しており、地域の行事や学校行事に参加したり、またホームの行事には地域の方の参加を呼びかけるなど積極的な働きかけをされている。散歩時には、挨拶を交わしたり近所にお邪魔してお茶を頂いたりしながら地域との連携を図ることで、無断外出された利用者に地域の方が気づき報告してくれた事例がある。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの理念を見直し、地域と共に営み成長していけるように理念を掲げている。地域にもわかりやすい表現の理念である。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念に沿ったケアを実践出来るよう、日々振り返るよう心掛けている。勉強会の際に、理念を伝えるようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の参加はもちろん、地域のお店などと交流を持ち、学校行事や市の広報誌の情報を見ながら地域のイベントに参加している。ホームの行事には、地域の参加を呼びかけている。ボランティアも頻繁であり、色々な場面で地域とのつきあいがされている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解している。また、自己評価を全職員で取り組む事で、振り返りの機会となっており、評価を活かして具体的な改善へと取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で出された意見を日々のケアに活かしている。会議には家族の代表以外にも参加していただけるように手紙にして呼びかけている。		

茨城県 グループホームひなたぼっこ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者に相談出来る関係になっている。市町村が主催する研修会やボランティア等に参加し講演依頼も受けている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に報告したり、月1回のホーム全体の便りと、利用者の様子を書式にし、写真を同封し送付している。家族はその写真を楽しみにしている。金銭管理は、月1回出納帳をコピーして送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しており、入居時に苦情が申し立てられる行政を伝えている。面会時や家族同士の交流が図れる機会に、意見等を引き出せるように働きかけしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	出来るだけ異動や離職を必要最小限に抑える努力をしている。新人職員には、利用者に影響がないように十分な引継ぎを行い、馴染みの関係が出来るまでは、経験の長い職員が教育していく体制作りが出来ている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりに合った研修に参加し、内容を共有できるように報告する機会がある。ホーム内研修も充実している事や、段階に応じて職員を教育する「プリセプター」という教育体制も整っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行事など、他のホームに招待状を出して来てもらったり、利用者と一緒に伺ったりする相互訪問の活動や、職員の交換研修をし、ケアの意見・情報交換を行ったりしている。また、専門学校やヘルパー養成からの実習生の受け入れも行っており、多くの交流を通じながら、質を高めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居までの間に、自宅に訪問して生活ぶりを確認したり、見学に来てもらったり、また体験入居など行いながら徐々にホームの雰囲気に馴染めるよう相談しながらサービス利用につなげている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者から調理方法や習わしごとなど普段から教えてもらう場面が多い。誰もが活躍できる場を広げていけるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わり合いの中で、本人の状況をみながら職員間で話し合い思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、家族から情報を得るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人に必要な関係者(担当者・看護師・ケアマネジャー・家族・医師など)と話し合い、利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に関係なく心身に変調があった時など、その都度関係者と話し合いながら、新しく介護計画を作成している。また、目標や課題の評価もされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイホームとの交流が盛んであり、利用者と共に送迎にいたりしている。家族の状況に応じて、外来受診サービスを行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族の希望を聞き、かかりつけ医の受診を支援している。協力病院は緊急時に対応できる体制になっている。また、週1回の往診もある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の体制をとっており、看取りマニュアルも作成している。本人・家族・医師・看護師・ケアマネージャー・職員などと各段階にあわせて話し合いを持ち、ケアの方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護に関する認識がされており、入社時や実習生の受け入れの際にも秘密保持の誓約書を交わしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や買物・外出、晩酌など一人ひとりの生活スタイルや希望に沿った支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けを一緒に行い、同じテーブルで介助が必要な方に配慮しながら、職員も一緒に作った食事を食べている。彩りが良く目で見ても楽しめる食事であった。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	「風呂に入って食事をして寝る」という、今までの生活習慣を考慮し、基本的に入浴を夕方に行っているが、本人の希望に応じていつでも入浴できる体制であり、利用者がゆっくりとくつろげるような入浴支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作りや掃除、洗濯物たたみやアイロンがけ等、利用者の力が発揮できる場面作りや、趣味や興味を活かせるような支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ドライブや買物、散歩・お弁当を持ってピクニックに出かけたりなど、利用者に応じた外出支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵をかけずに自由に外に出られるようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立会いのもと、利用者と共に避難訓練を実施している。地域の方にも協力が得られるように訓練には呼びかけるなど働きかけている。災害時の備蓄も確保されている。	○	災害対策に関して十分な取り組みがされているが、夜間を想定した訓練が定着化されていないようなので、今後全職員が対応出来るよう取り組みを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士に相談しながら献立を作っており、栄養バランスが摂れた食事内容となっている。食事量や水分量を毎日記録しており、なかなか水分摂取できない方にはゼリー等を提供するなど工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は畳のスペースでこたつがあったり、所々に季節の花が飾ってあったり、とても家庭的で居心地良い空間作りがされている。陽のあたる場所でくつろいでいる利用者の姿が見受けられた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを持ち込み、自宅で生活していた環境に近いような居室であり、居心地よく過ごせる配慮がされている。		